

経営比較分析表（令和元年度決算）

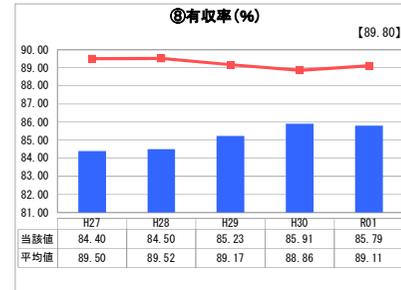
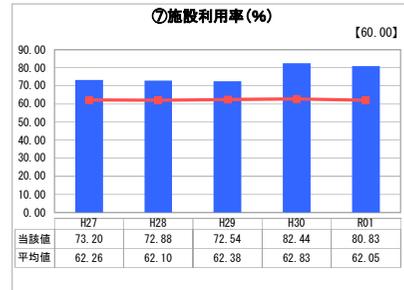
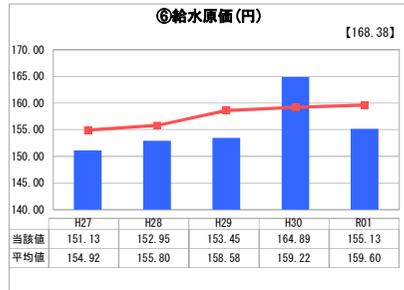
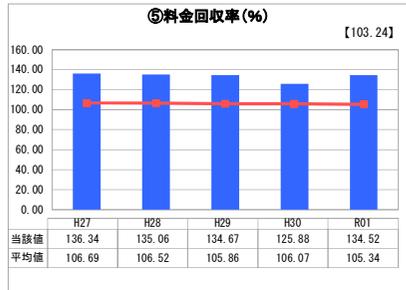
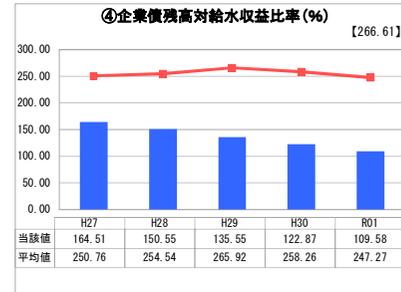
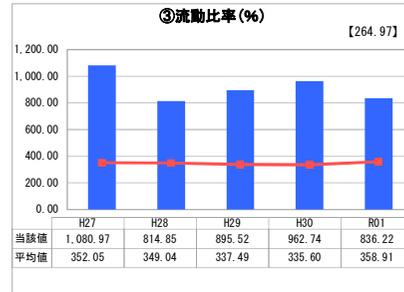
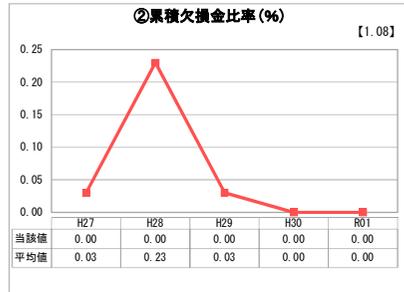
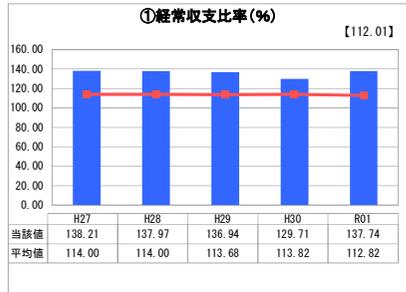
長野県 佐久水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	その他
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	85.67	75.65	3,685	

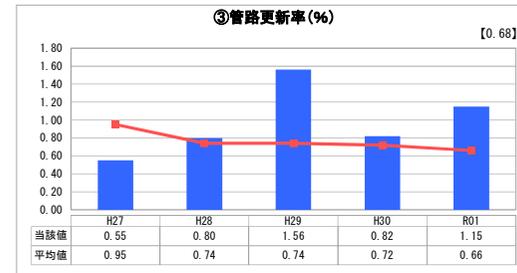
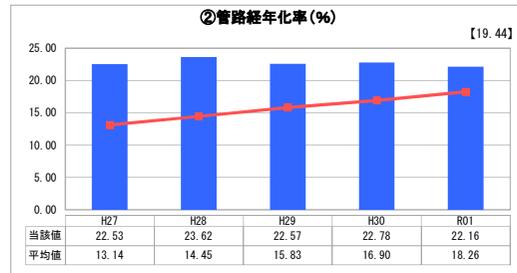
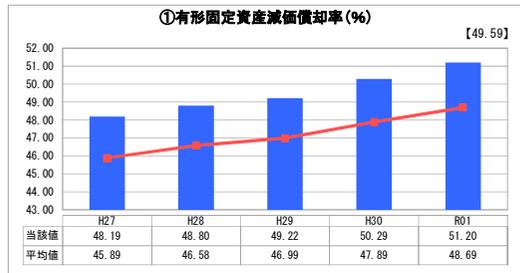
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
-	-	-
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
117,421	171.14	686.11

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率は100%を超え、収益が費用を上回っており、黒字経営と言えます。
- ② 累積欠損比率は0%で、営業活動による損失がないことを示します。
- ③ 流動比率は高い水準にあり、短期的な支払能力が十分ある状況と言えます。
- ④ 企業債残高対給水収益比率は企業債の新規発行をせず、企業債の積極的な繰上償還により企業債残高を縮小したことにより減少傾向にあります。
- ⑤ 料金回収率は100%を上回り、水道料金収入で経費が賅えている状態にあります。
- ⑥ 給水原価は平成30年度に配水池の経年劣化に伴う大規模修繕実施したものの、施設の老朽化による修繕費用は年々上昇傾向にあります。
- ⑦ 施設利用率は類似団体と比べても高い利用率であり、効率的に施設を利用してきていると言えます。
- ⑧ 有収率は類似団体を下回っていることから、今後も漏水箇所の早期発見と老朽管の更新を進め、漏水量の減少に努めてまいります。なお、令和元年度は台風19号災害による配水管破断もあり、前年度を下回っております。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率、② 管路経年化率は類似団体を上回っていることから、更新が必要な水道管が多いと言えます。
- 引き続き将来の水需要を踏まえて、計画的な管路更新に努めてまいります。

全体総括

経営の健全性と効率性については概ね良好な状態にありますが、人口、水需要の減少により給水収益が年々減少傾向にあるなか、老朽施設や管路更新の財源確保が必要であり、経営は厳しくなるものと考えられます。引き続き効率的な施設運用と計画的な管路更新を進めながら、災害に強い水道インフラ構築のため健全経営に努めてまいります。